

## 【三大学病院合同】循環器内科 専門修練プログラム

### 【熊本大学の特徴】

熊本大学循環器内科では、患者さんの生命予後改善を目的として患者本位の診療を行い、幅広い循環器疾患について各症例を全員で検討し全人的視点から心臓・血管病の専門診療を行っています。平成22年の年間入院患者実数は916人（緊急入院280人）であり、その内訳は虚血性心疾患をメインとするものの、難治性の不整脈から劇症型心筋炎、心筋疾患を含む重症心不全、末梢動脈疾患、肺高血圧症と多岐にわたっています。大学附属病院として、市中病院から紹介の最重症例に対応する最後の砦としての役割も果たしており、37床の一般病室と4床のCCU(Coronary Care Unit)はフル稼働して治療にあたっています。また、平成22年9月から新病棟へ移動し、CCUは以前の2床から4床に増床となっており、更に質の高い医療の提供が可能となっています。世界に先駆けて当科で開発・確立されたアセチルコリン負荷試験に、フローワイヤーを併用することで冠循環生理機能評価を詳細に行い、冠攣縮性狭心症の的確な診断と治療を実践し、良好な治療成績が得られています。心不全症例においても積極的に冠循環障害の関与を検討し、世界に先駆けた治療戦略を提案すべく検討を進めています。

近年、冠動脈インターベンションにおいては、内服による保存的治療と比較した優位性、冠動脈バイパス手術と比較した優位性を疑問視する報告が相次いでおり、患者さんの真の適応を考慮して最良の治療を厳格に検討しています。年間630件の心筋シンチグラフィ検査、1000件以上の運動負荷心電図検査、ドブタミン負荷、ATP負荷を含む6600件の心エコー検査数はそれを裏付けるものと考えます。インターベンションの適応と判断した症例には、血管内超音波検査による術中評価を積極的に行うことで、冠動脈形成術後の再狭窄は著しく低下しています。64列のマルチスライスCTも年間約600例施行されており治療戦略の検討に役立っています。先進医療として平成20年度より「エキシマレーザー血管形成術の臨床応用」に取り組んでおり、近い将来の冠動脈形成術困難例に対する画期的な治療法として期待される所です。救急患者をドクターカーで迎えに行くシステムも地域に浸透、循環器救急疾患の紹介・搬送において良好な病診連携システムが構築されています。長距離の移動を要する緊急患者は積極的に当科医師同乗によるヘリコプター搬送を行い、治療開始までの時間を短縮することで予後改善に貢献しています。

不整脈分野においては重症心不全患者への植え込み型徐細動器、心臓再同期療法は年間40例におよび、最新のエンサイトシステムを用いた高次心内電位マッピングシステムは先進的な不整脈メカニズム解明を進め、難治性不整脈診療を推進、平成22年のアブレーション数は136例であり急増させています。一般的に未だ成功率が十分高いとはいえない心房細動に対するアブレーション治療に関しても非常に良好な再発予防効果を挙げているのも当科の特徴です。

循環器疾患をとりまく全身疾患、生活習慣病：糖尿病、肥満、高脂血症、高血圧症、腎障害等は現代の高齢化社会において最重要の分野であることは間違いなく、デジタル血管内皮細胞機能検査 Endo-PAT を導入して、新たな視点から心血管疾患・血管内皮細胞機能障害の診断と治療法の検討を開始、総合的評価に基づき病態を詳細検討し診療・治療しています。同時に、日本に於ける臨床診療エビデンスを発信するために循環器疾患に於ける大規模臨床試験を積極的に推進しています。

卒後臨床教育においては、指導医、スーパーバイザー医による複数主治医制で幅広い意見を取り入れながら自主性のある臨床研修が出来るシステムになっています。レジデントトレーニングにはシミュレーターも充実しており、循環器疾患を幅広く、基本診療手技を確実に修得出来るようプログラムを構成しています。中央で開催される身体所見実習セミナーへの参加も積極的に促し、地方会での学会発表に関しても積極的に機会を提供しています。

